

ディボーション質問表



今週のエゼキエル書の箇所は、諸外国に対する審判（25～32章）の部分です。この預言は、エルサレムが陥落する（BC586年）前、バビロンによって包囲されていた期間になされた審判です。

24日（月）エゼキエル書 28：20～26節 シドンに対する預言

1. 20～23節はシドン（ツロの隣国）への預言です。どのような預言でしょうか？
2. 今までの厳しい裁きに終わりがありますか（24～26節）？ それはどのような状態でしょうか？

25日（火）エゼキエル書 29：1～16節 エジプトの罪

29～32章で当時の一大勢力国家のひとつであったエジプトに対する審判が書かれています。エジプトはイスラエルをはじめ、周りの国がうらやましがらるほど偉大な国でした。

1. 第10年（1節）とは、エルサレム崩壊（BC586年）の翌年です。エジプトはどのような霊性を持っていましたか（3節）？ 6節からエジプトはイスラエルに対してどのような外交をしたと思われますか？
2. 高慢で周りに真実に接することをしない、神の裁きにあうような生き方をしていないでしょうか？ また、そのようなずる賢い人にあこがれているところはないでしょうか？

26日（水）エゼキエル書 29：17～21節 エジプトとバビロン

1. 第27年（17節）はBC570年（エルサレム崩壊4年後）です。ネブカデレザルがエジプトのような大国を滅ぼすことができたのはなぜだと思いますか（17～21節）？ → いかなる業績も主の主権によってなされるのであって、決して自分の努力だけではないことを自覚し、謙遜に生きているでしょうか？
2. 21節はイスラエル回復の日について述べられています。どのような回復の預言でしょうか？

27日（木）エゼキエル書 30：1～19節 エジプトへのさばき

1. 2節に出てくる「その日」はエジプトが裁かれる日のことを意味しています。その日に主がどのような事をされるのか書き出してみましょう。
2. エジプト政権とその周辺の傀儡がそれまで持っていた勢力を奪われます。なぜ主はこの国々を弱めたのでしょうか？ 現代史に似たような例を思い起こす事ができますか？

28日（金）エゼキエル書 30：20～26節 パロの腕は砕かれる

1. 20節の第11年はBC587年です。主の裁きがこの箇所ではどのような形で描写されていますか？ この文脈の中で26節の「彼らは、わたしが主であることを知ろう。」という言葉の意味を考えてみましょう。
2. この章を読むと、神の働きには歴史的な側面のあることがわかります。いわゆる緒宗教の神々との違いをどんなところに見てとることが出来るでしょうか？ あなたにとってはどの節がそれを端的に表しているでしょうか？

29日（土）エゼキエル書 31：1～18節 偉大な杉の木

1. アッシリヤという国の特徴とその罪は何だと言われているでしょうか？
2. 現代、これと似たような国はありますか？ また私たちも個人的に同じような罪に陥っていないか吟味してみましょう。

***今週の箇所から3日以内に始められ、具体的、実現可能で計測することができる計画を聞いてみましょう。**